

3つの柱 2 いきいきとした暮らし、地域のつながりづくりをすすめます

地域課題の解決に向けて、地域でのつながりや協働が広がり、地域の団体・個人がそれぞれの力を発揮し、いきいきと活躍できる「まち 暮らし」



地域との対話の出発点 「地域つながるミーティング」をすすめています

2022年2月からスタートした「地域つながるミーティング」は、総代や地域コープ委員、サークル活動を行う組合員だけでなく、行政・社会福祉協議会・NPOなどの団体、地域で活動する個人・グループが参加し、対話を通じて人や組織がつながる場です。2023年度は、のべ3484人が参加しました。

地域の課題について話し合い、各々の強みを生かし、課題解決につなげています。より良い地域づくりをめざし、さまざまな活動が生まれるきっかけとなっています。



地域の団体や個人が地域の課題や活動について話し、交流を深めています

うみかぜ音楽祭を開催しました

10月、兵庫県立舞子公園特設会場で「うみかぜ音楽祭2023×健チャレMEETS」を開催しました。テーマは「スポーツと健康」。コーラスやダンスパフォーマンスの発表に加え、医療生協による健康チェックや兵庫県漁業協同組合連合会の「ひょうご地魚推進プロジェクト(とれびち)」など22ブースが出演。潮風を感じ音楽が流れる中、約2700人の方でにぎわいました。



明石海峡を背にパフォーマンスを披露する参加者

地域の野菜や果物の普及に協力しています

コープ園田では、販路がなくなった地元のいちじく農園に協力し、2021年から供給を開始。地域の方が生産した「顔が見える商品」で、とてもおいしいと人気商品になっています。



また尼崎市内の店舗では、同市産の野菜「あまやさい」のコーナーを設置。一時は消滅の危機にあった伝統野菜「田能の里芋」や里芋を使ったコロッケも供給し、好評でした。



地元の野菜を供給する売り場(コープ園田)

地域団体と共に健康イベントを実施しています

行政や地域の団体・企業と手を組み、健康づくりのイベントを開催しています。コープ茨木白川では、店舗に併設するついで場で定期的に健康づくりをサポート。自立した暮らしを望む声を受け、栄養士・保健師による健康相談やカフェを行うなど、生活習慣を改善する「食と健康」の取り組みをすすめています。



健康相談を行うカフェコーナー(コープ茨木白川)

行政と包括連携協定を結びました

2024年2月に豊能町、同年3月に川西市と包括連携協定を結びました。行政と結ぶ包括連携協定は、8市2町となりました。

くらしの課題は地域ごとに異なるため、行政と包括的な連携を図り、これからもくらしを応援し、地域の活性化、持続可能な社会の実現をめざし、地域とのつながりを強めます。



川西市 生活協同組合コープこう 包括連携協力に関する協定 締結

上浦登 豊能町長(右)、大阪北地区 西田紀子理事(左)

越田謙治郎 川西市長(左)、第1地区 本田千絵子理事(右)

コープこうべアプリで組合員同士の交流が広がりました

コープこうべアプリの掲示板機能「ルーム」の活用が店舗や地区本部に広がり、「ルーム」の数は31個になりました。組合員からのコメントや「いいね」によって世代や地域を超えた交流が活発になっています。



組合員同士がコミュニケーションできるアプリの機能「ルーム」

気軽に参加できる募金のしくみづくりをすすめています

宅配をご利用の方は、毎年2月に実施する「め〜むde募金」や「商品購入を通しての募金」でいつでも気軽に募金に参加できるしくみづくりをすすめています。商品注文書に品番と数量を記入すれば、コピーポイントを使用して募金ができます。「ポイント募金」には、1万7900件、ポイント1155万円分の善意が寄せられました。これからもお買い物とあわせて気軽に参加できる取り組みを増やしていきます。



ポイント募金についてお知らせする宅配チラシ

「ふれあいひろば」を開設しています



2025年3月までにコープカルチャー事業を終了することになり、閉鎖となった事業所では跡地を貸室として使用できるように新たな学びや活動交流の拠点「ふれあいひろば(コレル)」を開設。コレル相生・大久保・塚口・姫路田寺・桜塚・めふの6つの拠点でスタート。これまでのコープカルチャー講座の一部は、自主運営で活動を開始し、学び合い・教え合い活動の継承や新たなコミュニティーの場として生まれ変わっています。



貸室利用や活動について案内する様子

若者とのつながりが広がりました



若者応援ポータルサイト「Konoyubi.(コノユビ)」では、若者の地域での活動を紹介しています。また、コープこうべの「虹っ子平和スタディツアー」に参加した中学生・高校生有志が「Konoyubi.広報隊」を結成。コープこうべの活動をこのサイトで発信しています。また職員が高校で出前講座を開催したり、地区本部主催イベントに高校生の活動グループが出展するなど、さまざまな形でのつながりが広がりました。



「野外音楽FESTIVAL IN上郡」で取材をする広報隊メンバー

子ども食堂の活動が広がりました

コロナ禍で休止またはお弁当のお渡しをしていた子ども食堂やコミュニティー食堂の活動が再開しています。新たな子ども食堂も立ち上がるなど、子どもの居場所づくりの取り組みが前進しました。コープこうべ全体で42の子ども(コミュニティー)食堂がコープサークルに登録し、地域で活動しています。



店内のつどい場で開催する子ども食堂(コープ西宮南)

新たな「つどい場」づくりに取り組みました

誰もが気軽に集まり、つながり、いきいきとした地域をめざすコープの拠点「つどい場」は22カ所になりました。コープ甲東園の隣にはつどい場「CO・KO」。コープミニ中津の跡地にはつどい場「かっこ」。コープミニ月が丘の店内には、つどい場「つきのわ」を設置。人々が交流し、誰もが憩える場になっています。



コープ甲東園の隣にオープンしたつどい場「CO・KO」

多世代が交流する場「スマホ教室」を開催しました

各地区とつながりのある学生たちが、地域の高齢者を対象にスマホの操作を教える講座を開催しています。「スマホの使い方が分からない」「Zoomって何?」という声を受け、若者が地域の方と気軽に交流しながら、使い方を分かりやすく伝えています。これからは多世代が交流する場づくりに取り組んでいます。



高齢者らにスマホの操作を教える高校生

行政・地域団体と共に、居住支援の取り組みをすすめました

尼崎市営住宅を活用した居住支援等のネットワーク「REHUL(リーフル)」が広がっています。第1地区の呼びかけで19の生活支援団体がネットワークをつくり、シングルマザーや留学生などへの住まいの提供に協力しています。またコープこうべの旧女子寮を住まいの確保が困難な女性向けの共同住宅「六甲ウィメンズハウス」に転換するプロジェクトに協力。第3地区では運営団体と共に入居開始に向けた準備をすすめています。



旧女子寮をリフォームした部屋の様子(左)、「REHUL」で活用される尼崎市営住宅(右)

「コープくらしの助け合いの会」は40周年を迎えました

1983年、「地域に相互扶助の輪を」という趣旨で始まった有償の家事支援活動「コープくらしの助け合いの会」は40周年を迎えました。「40周年記念全体交流会」には、約170人が参加。これまでの活動を振り返り、今後の活動について心を合わせました。各地区では、40周年企画としてコープサークルと協力してカフェや学習会などを開催。会員の皆さんと共に「知ってもらおう つなげよう ひろげよう」のチャレンジを続けていきます。



庭の掃除をする「コープくらしの助け合いの会」活動会員
40周年の会員メッセージ▶

「たすけタッチ」でのつながりが広がっています

ちょっとした助けが欲しい人と助けたい人をスマホのアプリでつなぐ取り組み「たすけタッチ」。これまでの約3100回、ゴミ出しなどを住民同士で助け合ってきました。神戸市垂水区乙木小学校区ですすめてきたこの取り組みは、東灘区渦森台でも運用を始めています。つながりづくりをすすめ、助け合える地域づくりをめざしていきます。



ご近所の方のごみ出しを手伝う組合員